

第2回 小牧市まちづくり推進計画審議会（第1部会） 議事録

日 時	平成30年12月25日（火） 9時30分～12時00分
場 所	小牧市役所本庁舎 6階601会議室
出席者	<p><b>【委員】（名簿順）</b></p> <p>小柳 松夫 小牧市区長会 連合会長  鈴木 義久 小牧商工会議所 副会頭  水谷 幸一 連合愛知尾張中地域協議会 副事務局長  代田 義勝 長崎県立大学 教授  市川 紀六 一般公募者  一戸 貢 一般公募者  関谷 政夫 一般公募者</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>立松 裕康 危機管理課長  林 浩之 市民生活部次長  松永 祥司 地域活性化営業部次長  余語 敏彦 副消防長  伊神 彰 消防署長  小塚 智也 市長公室長  駒瀬 勝利 市長公室 秘書政策課 課長  安藤 誠 市長公室 秘書政策課 市政戦略係長</p>
欠席者	<p>佐藤 君治 小牧青年会議所 専務理事  加藤 武志 中京大学 講師</p>
傍聴者	3名
配付資料	<p>資料1 シートの見方  資料2 小牧市まちづくり推進計画（案）  参考資料1 小牧市まちづくり推進計画審議会部会構成  参考資料2 基礎調査報告書  参考資料3 まちづくり（市民アンケート）調査報告書  参考資料4 新基本計画に掲げる指標の進捗状況－集計結果－  参考資料5 現計画の評価分析シート</p>

## 内容

### 1. 開会

#### 【秘書政策課長】

それでは定刻となりましたので、ただいまから第2回小牧市まちづくり推進計画審議会第1部会を開催させていただきます。よろしくお願いいたします。本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

始めに、本日は、加藤委員、佐藤委員よりご欠席との連絡をいただいておりますので、報告させていただきます。

本日の議題につきましては、お手元の次第のとおりであります。

### 2. 市民憲章唱和

### 3. 部会長あいさつ

#### 【代田部会長】

改めましておはようございます。部会長の代田でございます。本日は大変お忙しい中、また早朝よりご参加いただきましてありがとうございます。

本会の審議分野は非常に広範囲にわたっておりますが、委員の皆様には活発なご議論を通してよりよい計画をつくってまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また審議のお時間ですが、非常にタイトになっております。円滑な議事進行に努めてまいりますが、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、あいさつとさせていただきます。

### 4. 議事

#### (1) 分野別計画編(案)

#### 【秘書政策課長】

それでは、次第4. 議事のほうに入っていきたいと思います。本日は事務局としまして担当部の次長等が同席をさせていただいております。ご指摘の内容によりましては、担当部局より説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以降の進行につきましては代田部会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

#### 【代田部会長】

それでは私のほうから進行をさせていただきます。始めに、この第1部会の担当分野と部会の進め方について確認したいと思います。

まず、この第1部会で審議する分野ですが、本日は「安全・環境」と、それから「産業・交流」であります。次回は1月11日になりますけれども、「都市基盤」になっております。なお、本日審議いただく「安全・環境」の基本施策ですが、まず5つの部門ですね、防災、生活安全、それから消防・救急、環境、ごみ対策、この5つの基本施策。それから「産業・交流」のほうではシティプロモーション、それから農業、商工業、この3つの基本施策になります。

次に今日の進め方ですが、まず事務局より本日審議する8つの基本施策すべてについて、簡潔に説明をしていただきます。委員の皆様には事前に資料を送付させていただいていることが1つと、もう1つは可能な限り審議に時間をとりたいと思っておりますので、この場での細かい説明は省略させていただきますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

事務局からの説明が終わりましたら、基本施策ごとに審議を進めてまいります。具体的に申し上げますと、始めに防災についてご審議をいただき、ある程度意見が出尽くした、あるいは一定

時間が経過したところで次の生活安全に進むというような形で進めさせていただきます。なお、本日の終了時刻ですが、正午を予定しております。したがって、1つの基本施策に要する審議時間が、申し訳ないのですが約15分程度になります。ですから繰り返しになりますけれども、円滑な議事進行にご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、委員の皆様へのお願いになりますが、計画案の記載内容についてご意見をいただく際には、できるだけ具体的に、どの部分をどのように修正すべきか、あるいはどの部分に何を追加すべきか、こういった形でご発言をお願いできればと思います。

それでは事務局より、本日の議題となっている基本施策について説明のほうをよろしくお願いいたします。

#### 【秘書政策課長】

それでは私のほうから今回議題となっております基本施策について順次説明をさせていただきます。

それでは最初に、資料1のシートの見方を説明させていただきます。

(資料1の説明)

(資料2の説明)

以上、8の個別施策につきまして簡単ではありますが説明をさせていただきました。それぞれの基本施策の計画案につきまして、審議のほうをお願いしたいと思います。それではお願いいたします。

#### 【防災】

##### 【代田部会長】

ありがとうございます。それでは審議のほうに入っていきたいと思います。まず始めに「防災」についてご意見のある方は挙手にてお願いします。

##### 【市川委員】

具体的な内容に入る前に、私から前提条件というか基礎知識として皆さんと共有したいものですから、事務局の方に質問したいのですが、まちづくりの基礎調査報告書ですか、この最終ページのほうに将来の人口推計という形で、小牧市では人口が13%減少すると。ところが、生産年齢人口が24%、2万4,000人減少すると。その反面、老年人口が7,000人、率にして約19%増加すると。これは小牧市の財政にとってみると、非常に厳しい状況だと思うのです。

片やアンケートを見ますと、ああしてほしい、こうしてほしいという要望がいっぱいあります。ただ、市の財政が逼迫するという背景があり、ところがまちづくりをしていこうと思うと市民からいろいろな形でサービスレベルを向上してほしいという要望が乱立しています。この相反する環境の中で、どんな財政を念頭にしたまちづくり計画をつくるのかという基本的なスタンスについて、事務局の考え方、方針があればお聞かせください。

##### 【秘書政策課長】

今、委員のほうからまず前提としてのお話をいただきました。まず、まちづくり推進計画基礎調査報告書の最後のページのところについては、今、委員が言われたとおりであります。既に人口は小牧市も減り始めておりますし、将来的には人口が減っていくというのもやむを得ない状況かなと思います。また、生産年齢人口と高齢者の割合というのも、現在の人口構成からは基本的にはそのような形になってくるだろうと思われま。

そういう中で、非常に逼迫した財政状況が想定されるという前提で、この計画をつくっていくということになります。これは今の現計画であります新基本計画のときから、既にその辺は前提

としているという状況であります。あれもこれも何でもやるというものは少しできないという中で、各基本施策の中でどういうものができるか、まずはこれだけさせていただく、これから皆さんでご審議いただくこの基本施策というのは最低限市がやっていく、粛々とやっていくというものであります。

さらに、この財源的な中で投資しなければいけないものというのは、市政戦略編として挙げさせていただいて、より魅力のある小牧市をつくるためにこういう計画というふうになっておりまして、この計画を継承するような形で今回のまちづくり推進計画もつくっていくということになります。

ですので、要望というのは市民の皆さんにいろいろな意見を言っていただくのですが、まず最低限どういうものはやらなくてはいけないか、そういうものを考えながら計画を立てて、ご審議をいただければと思います。

状況が変わって、もう必要がないというものがあれば、そのようなご意見をいただければと思いますし、新しくこういうものが要るのではないかというものについてはご意見をいただくと。なかなか将来規模として難しい状況ではありますが、財政的に何でもかんでもやるということはいけないという前提で、この基本施策をご審議いただければというふうをお願いしておきます。

#### 【市川委員】

もう少し明確にお答えいただきたいのですが、この将来の財政が厳しくなる状況を踏まえた上で、今日の基本施策は考えていますので、財政的な面は心配ありませんよと、ある程度想定していますよというふうに理解してよいのですか。

#### 【秘書政策課長】

財政の状況が心配しなくてもいいですよというのは、ちょっと言いづらいところがあります。現在の規模を想定して計画を立てていただければと思います。

財政状況等については、できないものも今後出てくる可能性もありますし、その辺は今の時点で例えば8年後というのを想定するのはちょっと難しい部分がありますので、今の市の財政状況を加味した内容でお願いしたいと思います。

#### 【代田部会長】

財政状況は非常に厳しいので、それを前提にこの場での議論を進めたいと思います。そのほか、この防災のところ。

#### 【小柳委員】

この基本施策「防災」についてであります。今財政の話がありましたけれども、市民の意識を向上させるということ自体を自助・共助・公助というようなことで考えれば、この方向づけは僕は正しいというように思っております。

そこで質問になってしまうかも知れませんが、防災訓練の参加者数というところがあります。展開方向2の進捗状況を測定するための指標というところでちょっと気になるのですが、防災訓練の参加者数ということで、9,176名が参加しますということですが、これは市が主催される中学校で実施される防災訓練、さらには水防訓練、さらには各小学校区単位で行われている防災訓練の参加人数も加味されての数字なのかなというふうに思っていますが、その辺をひとつお答えいただきたいと思います。

#### 【代田部会長】

はい、お願いします。

**【危機管理課長】**

危機管理課の立松です。今、防災訓練の参加者数ということで、9,176人という形で基準値をあげております。

この防災訓練につきましては、地域で支え合う風土を醸成しますということで、共助の考え方に基づいて、今行われています小学校区の防災訓練、それから市の協働事業で実施しております自主防災会、各行政区から依頼のあります協働事業で行う防災講話や、家具転倒防止などの講座を受講していただいた数の総数として記載させていただいております、市で行う総合防災訓練、水防訓練の参加者数は除いてあります。

**【小柳委員】**

ありがとうございます。そこで、今小学校単位で積極的に防災訓練が実施されておりますので、私どもの小学校も市の指導や、あるいは消防署の指導によりまして、本年の2月18日に防災訓練を実施しました。第一段階として非常に多くの方が集まっていたいただきましたので、主催した私どもとしては非常に喜びを感じているのですが、さらに質的向上をしていかねばという部分があるのもあるので、明けて2月23日に2度目の防災訓練を実施します。ちょっと質を変えています、ここに書いてあるように、備蓄や家具の転倒防止ということで、この辺を重点的に進めていきます。

ただ、僕たちがやる防災訓練は、実は非常に質素にやります、財政的に。だけれども、実際に小学校単位でやっているのを見ると、同じようなことをやってもお金を費やして、それも補助されてやっているという状況がありますので、財政が厳しい折とはいえ、ある程度は補助が必要だろうけれども、その辺の考え方をもう少し具体的に指導していくという方法が必要ではないかと思っております。

私どもが前回実施をしましたのは、自主財源が3万5,000円ぐらいでできましたので、他と比べると随分質素にやれたなど。しかし中身だけは充実してやれたと。今後とも引き続きそういうことをしていきたいということがありますので、その辺の精神をこの中に入れていただければというふうな思いがございます。

**【代田部会長】**

例えば、ここに目的とか、あるいは展開方向とありますね。あるいは、それぞれの展開方向の中にも目標等がありますが、特に文言としてこういったものを入れてほしいというのはございませんか。

**【小柳委員】**

特に僕は防災訓練をやるということで自己満足をしてはいけないというように思いますので、もう少し地域でやれる防災訓練も一步一步具体的に、実際に発生するところまでのことはできないと思いますけれども、地域でどの程度やれるかということを上向きさせていくところのある程度チェックをしていく必要があるのかなというふうに思っています。

もちろん地域差もありますので、私どものような団地のところと農地のようなところは違うと思いますが、やはりそういう訓練の質を上向きさせていくという方向づけをする必要があるのかなと思います。

**【代田部会長】**

質を上向きさせるということですね。

そのほか、防災では何かありますか。

**【水谷委員】**

連合愛知の水谷です。私のほうからは、この計画の中に今回若者の世代に対しての取組としては書かれているのですが、高齢者の方ですね、今までも多分取り組んでみえたと思うのですが、やはり高齢者を巻き込んでこの防災に関しては今回も取り組んでいく必要があると思うのですが、今回の施策の中に高齢者の文言というのが1つも見えてこないということは、どのように今回この施策に対して考えているのかということをまず聞きたいと思います。

あと、先ほどから言われていますように、展開方向の2で、地域で支え合う風土を醸成するという中の防災訓練の中に、若い人と高齢者を含めた避難訓練であるとか、防災に対しての意識づくりということで、若者と高齢者のつながりというところをこの中に含めたほうがよいのではないかと思ったところではありますが、どうお考えか伺いたいです。

**【代田部会長】**

事務局、いかがですか。

**【危機管理課長】**

現状と課題のところの2つ目の丸で、若者世代の防災意識が低い傾向にありますという形で、今年度実施しました、8月に公表しました市民意識調査の調査結果の中で、22ページのほうにも記載してあるのですが、75歳以上の高齢の方の意識が70%以上と高いところに反して、20代ぐらいの若い世代の方が42%ということで、75歳以上の高齢の方と比べると大変低い数字となっていることで、やはりこれからの地域防災の担い手となる若い世代の方に積極的に防災意識を図っていきたくて考えておまして、このような指標にさせていただいております。

**【代田部会長】**

よろしいですか。

**【水谷委員】**

そうすると、高齢者の方に関して今回は特にポイントを絞ってということではなくて、若い世代の人にそういう新しいメールの発信とか、SNSを使って、より防災に対しての意識づけをしていきたいというのが今回の考えということだと思うのですが、それに対して、やはり高齢者と若い人のつながりというのが一番重要になってくるかなど。意識としては高齢者の方が強いとは思いますが、実際災害が起こると、高齢者の方が犠牲になるというケースが多いと思うのですが、そういうところに対しても若い人の力が必要になると思いますので、意識づけをする中に高齢者の安全を守るということも入れていただけたらと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

**【代田部会長】**

それでは若者に加えて高齢者のほうもできれば入れていただければと思います。  
そのほかはよろしいですか。

**【市川委員】**

一人一人がということと、地域で守るということについては賛成なのですが、一人一人の中に、家具転倒防止と一人一人が各家庭でやってほしいという項目が入っていますけれども、基本的に公的な支援がある前に各家庭が、自分個人が飲料水とか食料を最初是用意してそろえておくということも必要かと思うのです。その点について、特に非常食の準備ということは一切触

れていませんけれども、公的な支援が2日間か3日間、最低限各家庭では1日とか2日とか3日というような形の備えをしましょう、モデル的にはこうですよというような形のことも、ぜひ皆の意識の中に兼ね備えると。転倒防止だけでなしに、自分の健康を守るという形のことも付け加えていただくと助かるなと思いますが、いかがでしょうか。

**【危機管理課長】**

今回展開方向の指標とさせていただいた家具の転倒防止というところですが、やはり地震など大きな災害が起こったときにはまず自分の安全を守る、その次に今言われたように水や食料の備蓄というところが大事になるのですけれども、これまでの中で具体的にまずは自分の安全を守るために、身を守るために何をするかということで、そのあたりを指標としていますが、おっしゃるとおり備蓄についても大変重要なことでありますので、検討したいと思います。

**生活安全**

**【代田部会長】**

それではもう時間が15分を過ぎておりますので、次に入ります。「生活安全」のほうに入っていきたいと思います。いかがでしょうか。

**【一戸委員】**

私のほうから、この項目に多分該当するのではないかと思いますけれども、今、保健センターのほうが中心になっておりますけれども、自殺者を減らそうとか、なくそうということで、自殺対策計画策定委員会というのをやっています、私もその委員です。平成10年から平成22年まで、日本国全体で3万人、それから平成22年から現在まで2万人と、かなり減ってはいるのですけれども、その中で主要7カ国、日本、フランス、アメリカ、ドイツ、カナダ、イギリス、イタリア、その中ではっきり言って日本が一番人数が多いのです。特に15歳から40歳ぐらいまで、若い世代ですね、本当にこれから日本を背負っていく、そういう人たちが今非常に多いです。

その中で、小牧市が統計調査によりまして、5年間で144名自殺者が出ております。やはりこれも20代、30代が多いのです。

いろいろな理由があります。私はこの生活安全というか、根本的なことですが、もっともこの問題を、今までは個人の問題というふうな話がずっとあったらしいですけれども、つい最近から、これはやはり地域の問題として捉えなければならないだろうということで、国が積極的にそのための政策をつくろうということで、小牧市も今年の4月から4回ぐらい会議をやりまして、大体の骨子が決まりました。

やはり基本的な理念としましては、心と命を大切に、気づき、つながり、そして皆で支え合う社会をつくろうというのが基本的な考え方です。そこからいろいろ方針をつくりまして、この項目については、やはり私は基本的な方針の3番目の安心して相談できる、SNSをいろいろ今考えてやろうかなということで検討していますけれども、やはりこの項目の中に重要課題として設置していただきたいというふうに思います。

それと、この地域はどうか分かりませんが、やはり孤独死があります。自殺の前に、本当に一人住まいで、いろいろな家庭環境、それからいろいろなことがあって、お一人で住んでいる方の孤独死というのも、この小牧市でしっかりと方針をつくってやる必要があるのではないかと思います。以上です。

**【代田部会長】**

自殺と孤独死に対する対策ですね。そこを市側から。

### 【秘書政策課長】

それでは今、委員のほうから自殺対策と、それから孤独死についてご意見をいただきました。

ちょっとわかりにくくて申し訳ありませんが、実は自殺対策につきましては次回第2部会の福祉の関係で「健康づくり」という項目の中で審議をいただく予定をしております。思春期、それから青年期の死亡原因としての自殺が一番多いというところと、それから心と体の健康づくりというところで、審議をしていただく予定をしております。

それからあわせて孤独死につきましても、地域福祉の中で地域包括ケアという部分がありますので、そこで今後議論をしていただく予定をしております。

大変申し訳ありませんが、これは次回のところというのと、それから第2部会ということで、この部会とはちょっと違う、次の部会のほうでということになっておりますので、そのあたりをあらかじめご了承いただきたいと思っております。

### 【代田部会長】

目的と展開方向のバランスのほうはいかがですか。生活安全のところですね。特によろしいですか。

### 【市川委員】

2つほどあるのですが、1つは交通安全意識ですね、これはマナーという表現をしていますけれども、ルールがあって、ルールよりも少しソフトな感じでマナーがあるということだと思っておりますが、最低限のルールをしっかり守らないことには必ず交通事故につながってしまうと。例えば高齢者が道路の中央を歩くとか、あるいは自転車の右側を大回りでなしに小回りで入ってくる。実際高齢者を見ていると、随分ルールを守っていない方がいっぱいいると。とても怖くてそばを通れないということで、こういう方たちには最低限ルールは100%守るという出発点に立たないと、こういうソフトな交通マナーを守りましょうという形だけでは、何か減らないのではないかと。

多分高齢者の方は、以前はしっかりと交通ルールを学んで、多分頭では理解していると思うのです。だけど実際の行動が追いついていない。高齢者は確かに被害者かもしれないけれども、高齢者に被害を加えた加害者自身も生活が破綻するという形で、これまでの生活を守れないという、相手方もかなり悲惨な目に遭うということを意識していただくという意味で、もう少しそういう原点に立ち戻って、ルールを守って、自分だけでなしに相手に対しても慮るような形、そこまで踏み込んだ教育といいますか、周知徹底。

多分こういう出前講座等に来る方は意識の高い方ですから、その方はルールを守ってマナーも守っている。こういうところに参加しない人が実は問題なのだと。そういう発想の転換を図らないと、なかなか、特に高齢者に対する周知徹底は難しいのではないかとということで、多分わかりだと思しますのでよろしいかと思うのですけれども、その点が1つです。

今一つの部分は、犯罪のほうですね。地域で犯罪を防止しようということは大賛成なのですが、地域で足並みをそろえる、あるいは各家庭が足並みをそろえるという意味で推奨すべき模範的な地域はセンサーライトがついています、防犯カメラがついています、あるいは見通しのよい生垣になっています、二重ロックができています、そんな形のことを地域で取り組んでいますよということを各人が「ああ、これが小牧市の理想的な犯罪のない地域なのか」というような形のことが、本人も周りも皆わかるようなイラストか、あるいはモデル地区の実施か、何かそういう形で目に見える形にさせていただくと、こういう抽象的な文章よりも、市民の方に徹底できるのなら、そこをもうワンステップ進めていただくとよいのかなという形で、これはあくまでも要望ですから、特に答えは要りませんけれども、そういう考えもあるということを念頭に置いていただきたいと思います。ありがとうございました。

**【小柳委員】**

ちょっといいですか。全体的には何ら問題はないと思いますが、私どもも実は自主防犯パトロール隊というのを結成して、40 数名おりました、毎週水曜日の夜 8 時から約 1 時間、町内をパトロールしています。

これだけでは、実は町内だけですからすべてできませんので、今後の方向づけとしては小学校単位の防犯部会というものをつくって、それぞれの町内でやっているけれども、横の連絡を密にすると、こういう活動を展開していきたいというふうに思っています。考え方はそのように思っています。

ただ、1つ教えていただきたいのですが、右側の手段というところにパトロール団体の活動費用の補助や取り組みというところがありますが、その下の大事なことは、防犯灯や防犯カメラの設置を促進しますと。これも実は補助が一定量出ているのです。したがって、これなども僕は設置費の補助の体制強化をしてもらいたいと頭の中で思っているのですが、この辺は補助というものが書かれていないのですけれども、これはどうしてなのでしょう。防犯カメラの力というのは最近かなり強いものですから、補助体制をもう少し強化してもらおうと、地域にいる我々としてはさらにありがたいという思いがありますので、その辺のお考えをお願いします。

**【代田部会長】**

展開方向の 2 の手段の 3 番目のところに、補助という言葉を入れてほしいということですね。

**【市民生活部次長】**

市民生活部の林と申します。まず防犯カメラにつきましては、2 種類の防犯カメラの補助金を用意しております。事業者防犯カメラ設置補助金と申しまして、これは事業者が商業地の駐車場、共同住宅貸駐車場に防犯カメラを設置する場合に、購入費の補助率 2 分の 1 を補助するというもので、もう 1 つは今、委員が言われたような地域防犯カメラ設置補助金というもので、区が道路等の公共空間を撮影する防犯カメラを設置する場合に、工事費の補助 2 分の 1、補助上限額は 20 万円でございますが、これを補助するというものでございます。防犯カメラの補助については以上でございます。

**【代田部会長】**

既に補助があるということですね。

**【市民生活部次長】**

はい、あります。

**【代田部会長】**

文言として入れることは。

**【市民生活部次長】**

はい、文言として入れることにつきましても差し支えありませんので、入れていきたいというふうに考えております。

**【代田部会長】**

そのほか、よろしいでしょうか。

## 消防・救急

### 【代田部会長】

それでは3つ目、「消防・救急」のほうに入っていきたいと思います。いかがでしょうか。

私のほうからすみません、展開方向の1ですね、これは「住宅火災から市民の生命を守ります」という表現になっているのですが、現計画では「火災予防対策を充実します」という表現で、市民の生命を守りますという強い表現に変わっているのですね。

ただバランス的に見ると、「災害、事故から市民の生命、身体及び財産を守ることができるまちを目指します」という目的、こちらのほうにしっかり記述してありますので、これは少し表現としては目的のほうに入ってしまうような表現なのかなと。だから、むしろ今までの、現計画の「火災予防対策を充実します」のほうが、展開方向と基本施策の目的とのバランスがとれるのではないかというような気がいたしましたけれども、いかがでしょうか。

### 【副消防長】

前回の部分では「火災予防対策を充実します」ということで、少しわかりにくい面がありましたので、今回は「住宅火災から市民の生命を守ります」とさせていただきます。この中で住宅用火災警報器の設置率向上が目標になっているのですが、それだけではなしに、当然火災予防対策も同時に進めていくというような意味合いを持たせております。

### 【代田部会長】

わかりました。

### 【市川委員】

すみません、私那不勉強なのですけれども、住宅火災の原因のトップ3というのは何なのでしょうか。それをわかった上で、その要因に対して対策をしていくという形もあればと思うのですけれども、まずはその要因トップ3を聞かせてください。

### 【副消防長】

消防本部の余語と申します。よろしくお願いたします。

全国的に見ますと、火災原因のトップ3は、1位がタバコ、2位が放火、3位がたき火となっております。ただ昨年の小牧市を見ますと、一番多いのが放火、たき火はあるのですが、電気装置、電灯、電話等の配線、電気関係の火災も多くなっている状況です。2番目にタバコ、放火の疑いというような状況であります。

### 【代田部会長】

よろしいですか。

### 【市川委員】

その点を踏まえて、これまで議論した中でも、自分のことは自分で守りましょう、自助というふうに言っていましたけれども、自助という意味で、例えばタバコの始末とか、私は個人的には家の周りには燃えるものを出しておかないと。紙ごみなども必ず倉庫の中にしまっておくという形で、放火に対してもなるべく放火されないような形のことが基本的なのですけれども、そういうことを市民の方に意識していただくという形のことはこの中に盛り込まなくてよいのでしょうか。市民の自助を促すというような形での働きかけはいかがでしょうか。

### 【副消防長】

先ほどとちょっとつながるようなところなのですが、前計画で火災予防対策を充実しますという事で、当然そういった火災予防の事、防火対策の事、いろいろな面を含めて火災予防啓発をやってきました。それも取りやめるのではなしに、先ほども申し上げたように、市民の生命を守りますというようなストレートな形の展開方向としました。現況と課題の中で、近年全国的に見ますと火災による死者数がどんどん増えていっています。その中で建物火災も非常に多い状況ですので、火災予防の意識向上と住宅用火災警報器の普及啓発を進める必要があるということで、まずは市民の生命を守るという意味合いで住宅火災から市民の生命を守りますとさせていただいたのですが、当然火災予防啓発も継続して行っていくしますので、この辺の文言については一度検討させていただきますので、よろしくをお願いします。

**【代田部会長】**

そのほかよろしいですか。

**【小柳委員】**

これは基本施策の中の「消防・救急」ということで、展開方向4の消防団及び自主防災会活動の活性化を図りますという、この中には、自主防災会の初期行動の重要性の意識を高めるという内容も含まれて書かれているかどうかということですが。

僕は初期行動というのは何ごとでも極めて大切なことだというふうに思っていますので、そういうことが感じられるようなものがここに入っているかどうかということですが。なければ、ちょっと付け加えていただければ、自主防災会の初期行動の充実とか、活動の強化とか、いずれにしてもそういう意識をだんだん高めていかないといけないのかなという思いがあります。

**【副消防長】**

ありがとうございます。これにつきましても、現在の基本計画の中の展開方向では自主防災会活動を活性化します。自助・共助を強化し、安心なまちづくりを推進します。自助・共助の部分の防災対策、訓練などを周知啓発していきますということで推進してきたところ、最近、特に小学校区単位の防災訓練の実施率が高くなってきて、市内に16小学校区があるのですが、今年度は16小学校区のうち15小学校区で実施する予定であります。

最終目的は大災害に備えて、公助だけでは限界がありますので、自助を含む共助力を強化ということで、避難所運営、設営を地域の方でやっていただくという目標を設定させていただいています。

また、参加者も年々増えてまいりまして、まだ統計はとっていないのですが、若い方の参加がまだ少ないのかなというところで、今後次世代の地域防災力を担う若い方にも呼びかけて訓練をしていこうということを考えております。

今回は一歩前進というか、今までどおり自助・共助を、これからも同じように訴えてはいくのですが、一歩前進して高い目標に向けて進んでいきたいというような考えでおります。

**【代田部会長】**

初期行動というのはいかがですか。

**【副消防長】**

目標とか手段の中に文言を入れるということですか。

**【小柳委員】**

僕は言葉でどうしてこういうふうに言ったかということ、基本的にはこれをかみ砕いてやるのは

私ども地域の組織だと思うのです。ですから、字句に入っていようが入ってまいが、その方向づけをしていかなければならないという役割も実は私どもが持っているのです。ですから、そういうことで今申し上げたのですけれども、特に初期行動を入れなければいけないという立場ではございません。ただ、私どもがかみ砕いてそういうものを率先していくというような体制づくりが必要だということだけ申し上げておきたいと思います。

**【副消防長】**

非常に大切なことですので、その辺を一度検討させていただいて、どういった形で目標、手段に入れるかというのを再度検討させていただこうと思っていますので、よろしく願いいたします。

**【関谷委員】**

展開方向2のところ、耐震性の防火水槽、これは非常に結構なことなのですが、現状はどうなのですか、能力的に足りないのですか。大震災とか、そういうことを除いて、一般火災において足りないというふうに理解すべきなのですか、それともそれも含めてだというふうに考えたらよいのですか。

**【副消防長】**

現状と課題に書いてあるとおりでありまして、今現状の数値を申し上げますと、防火水槽に関しては市内に337基ありまして、そのうち耐震性のものは132基で、39.2%ということで、近年毎年のように大きな災害が発生しておりまして、今年も大阪北部、北海道でも地震が発生して、大きな被害が出ておりますので、その辺を踏まえて今までみたいに普通の防火水槽だけではなしに、耐震性の整備も計画的に行わなければならないものということで、こういった展開方向にさせていただきます。

**環境**

**【代田部会長】**

ありがとうございます。それでは、次の基本施策のほうに移りたいと思います。「環境」です。いかがでしょうか。

**【小柳委員】**

ちょっと質問させていただきます。大気汚染の関係が75%、基準値が75%なのですが、大気汚染というのは、下のほうは水質汚濁が100%になっていますけれども、大気汚染は75%になっているというのは、例えば自動車の関係というのはこの中に入っていないので、どうしても100%にならないということなのではないでしょうか。

**【市民生活部次長】**

大気汚染の関係で、今、小柳委員が言われたように、国道41号が走っておりますので、その関係で排気ガスが主に影響を及ぼしておりまして、測定場所につきましては小牧高校に測定場所がありまして、その物質を測定しておりまして、そのうち4つのうち1つが環境基準をオーバーしておりますので、75%というふうになっております。

**【小柳委員】**

はい、ありがとうございました。

**【代田部会長】**

そのほか、いかがでしょうか。

**ごみ対策**

**【代田部会長】**

それでは、次の「ごみ対策」に入りたいと思います。いかがでしょうか。

**【一戸委員】**

私もこの前小牧市のクリーンセンターとエコルセンターに見学に行っていました。あそこですべてのごみの処理をやっているということですがけれども、話の中で、京都がやはり今まで5つあった処理センターを、ごみを減らして、市民と行政と事業者といろいろ検討して、3つに減らしたと。結局、2つ減らしたということですね。そういう実績を持って、一生懸命やっているそうです。ですから市の財政も非常に、減った分だけ違う、有効な資金を使えるということになっているそうです。

小牧市も、平成12年では6万4,000トンあったのが、現在が4万3,000トンということで、かなり一般のごみは減っているようです。大体この2～3年、ちょっと横ばいでしょうか。企業ごみは残念ながら減っていないということです。

財政のほうですけれども、一般会計の中の衛生費というところに、このごみ処理費が入っているそうです。ですから43億の中の16億、つまり36%がこの一般市民の税金からごみ処理費を賄っているというのが現状だそうです。

企業ごみも当然一般市民からの費用でやっているわけですがけれども、健全な財政ということを目指していくためにはいろいろなことをやらなければいけないと思うのですが、特に企業ごみが非常に横ばいなのですね。出す量は全く一緒で、いわゆる企業からの雑収入ですね、消費収入に入っているのでしょうか、これだけ出したので、すみません、ありがとうございましたというお礼費ですが、これが年間122万しか、しかというのは失礼ですが、122万ぐらいしか入っていないと。ですから、我々が出しているごみと企業ごみは市民税から出しているわけですが、事業者のほうはそういう負担は、市民県民税とか、いわゆる法人市民税ですか、そういうものから徴収するのでしょうか、そういう意味でもっと財政を豊かにするために、事業者のほうももう少し頑張って、そういった低水準をもっと多く市のほうへお願いしたいと思います。

あとは、やはりいかに減らすかということで、京都の場合だと機械で生ごみを家の中で処理できる、この機械をものすごく使っているのです。聞いてみたら、何か小牧のほうは数台しかお貸ししていませんということで、その辺も意識がまだまだ薄いのかなというふうに思います。

ですから、そういう点も含めてもっと広報とか、そういうところで宣伝して、そしてこういうふうにやったら費用が減るのだよと。もっと10何億のお金を違うほうへ、もっと市民のためになることでやるのだという、そういった財政面からの訴えをぜひお願いしたいというふうに思います。

**【市民生活部次長】**

市民生活部の林です。まず事業系ごみの手数料ですが、小牧岩倉衛生組合のほうで徴収しておりますが、現在ほかの市町と足並みをそろえるような形で、比較的安価な額でございしますが、将来的にはもう少し上げていこうということも検討しております。

それから生ごみ処理機のことについてでございますが、これはごみを減らすという上で、生ごみを減らす手段として大きなものとなるということを考えております。ということで、ちょっとPRが足りないこともあるかとは思いますが、生ごみの堆肥化の容器ですとか、生ごみ処理機を

使っていただくようにPRをしていきたいというふうに考えております。

**【代田部会長】**

この生ごみについては、展開方向1の手段の最初のところに出てきますね、生ごみの減量の啓発という中に含まれると考えてよろしいでしょうか。

**【市民生活部次長】**

はい、そうです。

**【関谷委員】**

ちょっといいですか。方向の1ですね、その中で手段の中の2つ目に、地域による自主的云々というのが書いてありますけれども、この地域とは、例えば小学校とか中学校でやっている資源回収を称して、意識して書かれているか、あるいはそれ以外に何かほかの組織を立ち上げる、と言ったら大層ですけども、お考えなのか、その辺を確認したいのですが。

**【代田部会長】**

お願いします。

**【市民生活部次長】**

ここで書かれております地域といいますのは、町内会ですとか、それから小学校区ですとか、いろいろなものを含めて地域というふうに言っておりますので、例えば地区の大掃除ですとか、そういったものを想定して書いております。

**【代田部会長】**

これは手段としてこれから進めていくわけですよ。

**【市民生活部次長】**

はい。

**【代田部会長】**

そうすると、具体的に地域といってもいろいろな、それこそ小学校区なり、町内会なりあるので、どういった形で具体的に支援しようというふうに考えておられるのでしょうか。

**【市民生活部次長】**

古紙・古布につきまして、来年4月から区による集団回収を予定しております。要するに、そこで利益が出ればそれを還元するというようなことも予定しておりますので、それにつきまして地区、地域ということで考えておりますし、小学校等でのPTAの資源回収ということでも地域による自主的な資源回収というふうに考えております。

**【代田部会長】**

それを支援するのですね。

**【関谷委員】**

ちょっといいですか。今のお話で、当区では現実に缶を収集しているのです。区というか、桃花台地区全体ですって、たしか収入が32~33万ありました。32~33万の収入を年間得ているので

すけれども、そういうイメージでとらえておられるということですか。先ほどの紙も含めて。紙は資源回収を地域で云々というのは広報で見ましたけれども、そういう意味も含めてですか。

**【市民生活部次長】**

ええ、今までは市のほうで回収して、売却益は市のほうに入るといったものを、区のほうに還元するという形で、古紙・古布については考えております。

**【小柳委員】**

ごみ政策については、私は小牧市はかなり進んでいるというようなことをまず申し上げます。雑紙が今まで可燃ごみに入っていたものが、雑紙として、しかもホチキスが入っていても、のりがついていても、それを雑紙として集めるようになって、可燃ごみが随分減っていると。可燃ごみも、生ごみも、やがては電気に切りかえていくというような工場も誘致するというようなことがありますので、この先かなり減量化されていくというふうに思っております。

もう1つは、先ほどちょっと話に出ましたように、空き缶、スチール缶もアルミ缶もまとめてですが、桃花台の中では区長会が業者と提携して、年間34~35万の還元金をいただいているのですけれども、これは前から、平成8年、9年ぐらいから始めたのですが、今日まで続けています。

それから今お話がありましたように、古紙・古布の関係については集団回収という形でやっておりますけれども、実際に今までどおりの形で十分に、誰にも負担をかけずに、その費用については地域に還元していくという方法を今政策的にとられるということですから、地域にはそうした形で収集の努力をされるということで、地域に還元されるということは大きな方向づけだと僕も思っています。

桃花台だけは、モデル地区と言っていますけれども、先行地域として既にやらせていただいていますので、地域としては非常に進んだやり方がされているというふうに思います。

それから、快適で清潔な生活環境保持のために地域の美化を推進しましょうとここに書いてありますね。展開方向3です。これは、実は僕は桃花台ニュータウンですので、非常に緑道もきれいにされているし、公園もきれいにされておりますが、ペットの糞の後始末を徹底するために、区長会で毎年1回、ペットに対する糞の持ち帰りということを促進するようにPR活動をしているのですけれども、なかなか思うに任せないと。

今年も文章をもう少し理解するように努力して、3月に発行する予定ですけれども、そういうことを含めてこの美化活動を推進、実践をしているということだけ申し上げておきたいと思いません。

**【代田部会長】**

このペットの糞の処理についてはどうですか、手段とか、そういったところに特に書かなくていいですか。

**【小柳委員】**

団地特有なのかな。自分のところも犬を飼っておりますからよく注意しますがけれども、散歩していると残念だけれども、大分減りましたけれども、まだ一部。ですからこういう問題は根強くやらないといけないと思っています。

**【市川委員】**

この基本施策に書いていただく必要はないかと思うのですけれども、私が長期的なことをにらんで取り組んでいただきたいのはごみの分別方法が各地方自治体ごとにバラバラです。今回のスプレー缶の事故で明らかになりましたけれども、全国でもバラバラだと。多分これは地方自治体

によってごみの再処理施設が違うから、それを踏まえた上でバラバラなのだと思いますけれども、引っ越しをして小牧に来て、全く違うのでびっくりしたという方も多々聞きます。

そういう意味で、ここに書くのではなしに、各市町村が横で連携して、あるいは県を巻き込むような形で、5年後、10年後、こういう施設にしよう、こういう形で分別しようという取組をぜひしていただいて、10年後には愛知県のどこへ行っても皆一緒だと。あるいは全国どこへ行っても一緒だというような形になるような取組を、この基本施策に書かずに、小牧市として関連自治体に働きかけていただいて、そんな取組をしていただきたいなど。これは一市民として切なる要望です。

**【代田部会長】**

長期的な話になりますけれども、そんな可能性はありますか。

**【市民生活部次長】**

現在のところはございませんが、委員が言われたように処理をする状況が各々異なりますので、今そのような状況になっていると思うのですが、市川委員が言われた理想的な形に持っていきたいというふうには思っております。

**【小柳委員】**

関連しますけれども、今、スプレー缶は穴をあけて必ず出さなければいけないということを小牧市は徹底しておりますけれども、全然あけなくてもいいという、名古屋市もそうかな、そのまま結構ですというようなことがあります。今、市川さんのお話に出たと思いますけれども、将来的に、雑紙もそうですけれども、今までホチキスがついたものは絶対に受け入れられなかったけれども、それを対応できるメーカーというか受け入れ体制ができたので、そこを採用しているということですが、空き缶もスプレー缶もいちいち穴をあけなくても済めば、そんないいことはないのです。そういう業者というか受け入れを探すことはできないのですか。ちょっと質問です。

**【市民生活部次長】**

そういう業者を探すことはやっていかなければいけないというふうに考えておりますが、現在小牧市の方針としては穴をあけていただく。どうしてもあけられない高齢者の方とか、体が不自由な方については、市役所に持ってきていただくか、資源回収ステーションに持ってきていただく。それについては、特別な方法で処理をします。現在はそういう形をお願いをしているということでございます。

最終的に、小柳委員が言われましたように何もやらなくても出せるというのがやはり理想でございますので、そういう方法も考えていかなければいけないと思います。

**シティプロモーション**

**【代田部会長】**

はい、ありがとうございます。それでは「ごみ対策」を終わりにして、今度は「産業・交流」に入っていきます。最初が「シティプロモーション」になります。これはいかがでしょうか。

**【鈴木委員】**

それでは「シティプロモーション」について、基本的なお話と、1つ個別なお話をさせていただきたいと思います。

現在の計画を見させていただきますと、「シティプロモーション」の基本施策の中で、中心市街

地の活性化について展開方向として位置づけられております。しかし、この立案シートを見ますと、中心市街地の活性化について触れられておりません。もちろん中心市街地の活性化を図るためには、ハード・ソフトの両面からの取組が必要であり、この「シティプロモーション」という基本施策の中では、設定するには少し無理があるのかなと理解しておりますが、中心市街地の活性化は市の課題であり、また商工会議所としても活発な議論をしているところでございますので、この計画が市の総合計画である以上、他の基本施策を含めてどこかで触れる必要があろうかと思っておりますが、いかがでしょうか。

あと個別の話でございますが、「シティプロモーション」の基本施策の目的を、魅力を内外に発信するとしております。これを踏まえますと、展開方向2のイベント・祭りの集客力の問題であります。イベント・祭りにつきましては、二通りの考えがあると思います。いわゆる小牧市民のための祭りとして、小牧市民の集客力を高めたいと考えていること。もう1点は、周辺の地域へ小牧の魅力を発信し、小牧に1人でも多く呼び込もうと考えておられるかをお聞きしたいと思っております。

私も商工会議所の観光委員会でも議論をしておりますけれども、シティプロモーションの観光という観点からは、やはり内向きではなくて小牧の魅力を広く伝え、ほかの地域からの集客をするべきだと考えております。

例えば議論しますと、犬山の祭りとか、一宮の七夕等、誰もが知っているが、小牧の祭りについてはあまりにも知らないし、また見にも行ったことがないという他の市の意見が多く出されております。今後どのように発信されるのかをお聞きしたいと思っております。

**【代田部会長】**

いかがでしょうか。

**【秘書政策課長】**

それではまず最初に、私のほうから中心市街地の活性化ということで、現行の新基本計画のほうには、この「シティプロモーション」のところに計画があるけれども、今回このシートのほうにはないということで、当然必要ではないかというご意見をいただきました。

ご承知のとおり、市としても中心市街地の活性化というのは非常に重要な施策というふうに考えております。従来はハード・ソフトという面の中からソフト面を重視して、このシティプロモーションのほうに書かせていただいております。

今後というところで、ご承知のとおり駅周辺とか、ハード面の整備等もいろいろと出てくるというところでありまして、今回は中心市街地の活性化について、ここの「シティプロモーション」というところではなくて、今後話し合いをさせていただきます「市街地整備」のほうで少し議論をさせていただきたいというふうに考えております。

ですので、そちらのほうに、ソフト面を軽視するというわけではなくて、ハード面をかなり今後重点的にというところがあるものですから、ここのほうにさせていただく予定をしておりますので、そちらのほうで議論いただければというふうに思います。

**【代田部会長】**

よろしいですか。

**【地域活性化営業部次長】**

続いて地域活性化営業部の松永でございます。よろしく申し上げます。

展開方向2のイベント・祭りについての集客の問題であります。このイベント・祭りの対象につきましては、鈴木委員のご意見のとおり、市民を対象とする市民まつりと、今検討している新

しい祭りがあり、また観光につきましては小牧山を観光テーマとした春のさくらまつりや、薪能、夢夜会のようなものが市外からの誘客を目指して実施しております。これらにつきましては、ポスターやチラシを市外にも配布し、誘客を図っているところです。

また、犬山とか一宮は知っていても小牧のことは、というお話もありました。これにつきましても、展開方向1の手段のところにもありますが、近隣市の観光資源と小牧山を結びつけた観光情報発信とか、ツアーなどを企画して情報発信していきたいと思っております。

**【代田部会長】**

よろしいですか。

**【市川委員】**

今の鈴木委員の発言に対する関連なのですが、私は図書館協議会委員をやっている、新図書館への移行についての議論にも参加したのですが、その際にもお願いしたのですが、新図書館が人々が集う楽しい場というようなスローガンだったと思います。

そこで、小牧駅から新図書館、こども未来館、あるいはその先にある小牧山まで、そこを人々がそぞろ歩く、そこへ行くと楽しい、何か図書館で、あるいはこども未来館で、あるいは小牧山でイベントがある。だから点ではなしに面としてつながって、そこを人々が楽しく、自分は図書館中心に、自分は小牧山を中心に、そのような形で、ここで単発で小牧山をポンと上げるのではなく、ぜひ小牧の町全体で、小牧駅から小牧山まで面としてつないで、そこは人が歩いて楽しい、あるいはイベントがある、そういう形で単独ではなしに、小牧市全体、面でもとらえたプロモーションにまで発展していただきたい。

図書館のほうは図書館で一生懸命考えておりますので、ぜひそこをつないでいただく、横串で活動していただくという形まで推し進めていただきたい。これは切なる要望です。

**【代田部会長】**

いかがですか。

**【地域活性化営業部次長】**

今、シティプロモーションのほうで中心市街地の活性化ということで、いろいろな団体と連携しながらまちなかの活性化ということで、拠点はやまもとを中心ですが、そこから少し離れたところを活用したり、また別のところで小牧山の史跡公園を活用したりということで、いろいろなイベントなどが行われております。

そういったような形で、今後も進められていくと思いますので、よろしくお願いたしたいと思っております。

**【小柳委員】**

観光推進の体制を強化しますということであつたわけなのですが、今、小牧のシンボルであれば小牧山ということは私も認識しています。したがって、その整備は今歴史館を含めてされているということは、1つの目玉ではあると思います。

ただ、先ほど鈴木委員がおっしゃいましたように、市民が誇れるものと、それから域外の人たちが小牧を見つめて評価するということの観光施設が非常に乏しいのではないかとこのように思います。

ですから、これから多くの人を呼び込む観光ということが今のままで今後小牧市としてできるのかどうかということになると、メナード美術館もあります、これは民間のものであり、田縣神社さんも豊年祭等がありまして、よそから呼び込むということができそうですが、小牧の史跡として

は、先回もちよつと触れたかもしれませんが、大山廃寺があります。これは言ってみれば宗教法人ですから、なかなか市が率先してというわけにはいきませんが、ああいった眠ったものをいかに掘り起こしていくかということが1つの観光を盛り上げていくためには必要ではないかと思っています。

私は、実はJRの研究所があっても閉鎖的で、山の中にポツンとあるだけで、実際には外には知られていないと。ポリテクセンター中部も、国の施設でもあるし、技術開発には非常にいいところだというふうに思います。

そのようにして、資源はあるのですけれども、なかなか掘り起こすことができないという面を持っているのではないかと思いますので、その辺は強めていただきたいという思いがあるのです。

実は桃花台の中にも47号古窯という須恵器の展示施設があります。これを整備するときに、本来はそれもなしにするということでした。僕は関係者に必死になってお願いして、桃花台の中央公園の中にあるのです。この場所も宣伝ができないから、なかなか日の当たるところにはならないと。そういうものを掘り起こして宣伝していくことが大事ではないかと。そのやり方もいろいろあるでしょうけれども、そういった小牧山とか、メナードさんとか、田縣神社さんとか、間々観音とかいうことだけでやって、今まである、眠っているものを掘り起こしていくという努力がこれから必要だというふうに思っているのですが、その辺はいかがですか。

#### 【地域活性化営業部次長】

委員のおっしゃるとおりであります。観光資源の発掘というか、掘り起こしというのは重要なことであります。

現在、観光協会を設置しまして、そこを中心にいろいろな観光資源の発掘と情報発信に努めていますので、また機会をとらえて、今おっしゃった大山廃寺とか古窯などのPRもできれば思っております。

#### 【小柳委員】

それからもう1つ、名古屋コーチンは小牧市が発祥の地だということをうたっているのですね。そのために、商工会議所の関係者も随分努力して宣伝しているのですけれども、実際には発祥の地がどこにあるかということだって知らないのです。市も、海部壮平さんの碑も「発祥の地はここですよ」という目印はあるのですが、周りは草ボーボー、これが発祥の地で、観光としてはこのままではとてもじゃないと。だからその辺のことも、本当はもう少し議論する必要があるのではないかと。できないならできない、できるならやってみようじゃないかという話がね、本当は熱く語られなければいけないというように僕は思っているのです。

したがって、そういうものをつなぎ合わせて観光というものをもう少し盛り上げて、よそから人を引っ張ってくると。名古屋コーチンというと、河村市長が随分取り組んでいますけれども、そういうことではなくて、小牧が発祥の地だよということをアピールしながら整備していくということも大事なことだと思っておりますので、その辺の思いをお伝えしておきます。

#### 【水谷委員】

連合愛知の水谷です。私のほうからは、展開方向2の魅力あるイベント・祭りの開催ということですが、これに関して、やはり先ほどから出ています集客力というところも気にはしているところなのですが、小牧市民会館のほうでいろいろなコンサートやイベント等をやられていると思うのですが、そちらのほうの集客力ですね、多分満員になるということがあまりないと聞いています。昨日行われた中部フィルですか、あそこは多分1,000人ぐらいと新聞には載っていたのですが、ほかのコンサート等は200~300人という、あそこのホールでの集客で、それでチケットの販売方法等が、大体市役所に来てチケット購入とか、市役所関係のところで購入というふうにな

っているので、市外の人が来られないということが原因だと思うのですが、外部のプロモーターですか、チケットぴあとか、サンデーフォークとか、そういうところを利用して市外にアピールするとか、そういうところを今利用しているのかどうかを1つ伺いたいと思います。

【代田部会長】

いかがですか。

【秘書政策課長】

今いろいろなコンサートやイベント、特にコンサート系のものだと思いますけれども、チケットの販売というところであります。実は、市のほうでは多くを生涯学習ということで、社会教育の分野のほうで実施しております。今、水谷委員からあった意見も伝えながら、今後審議をしていきたいというふうに考えております。

チケットの販売方法等も、チケットぴあ等を使った市外の方が買えるような形でやっているものもあれば、そういうふうになっていないものもあるかもしれません。その辺も今後確認していきたいというふうに思っております。

**農業**

【代田部会長】

それでは次の「農業」に入っていきたいと思います。いかがでしょうか。

【小柳委員】

いいですか。農業ということは非常に大切だけれども、日本全国どこへ行っても放置された農地があります。今も農業に従事する人というのは平均年齢69歳とこの間言われていましたけれども、非常に高齢化して、この先大変な時代が来るのではないかというように、特に農業も水産業もそうですけれども、農業というふうにとらえれば小牧市も大変な後継者不足の時代がもうすぐ間近にやってくるという、これが実態だと思います。

今、農業というのは補助金を個々に出すというやり方と、あるいは実際に農業の基盤を整備していくという2つのやり方で、今はどちらかというとも基盤を整備して機械化を進めていくという状況に、これからさらになっていくと思うのです。

僕もあちらこちらへ行きますと、今農地改良をどんどんやって、米どころなどでも広い面積を、今まで網の目のようになっていたものをもっと広げて機械化促進ということで、その機械も無人化というような話もあるぐらいですから、そういう形で農業を展開していかなければいけないというのが実態だと思っています。

しからば、小牧の農業というのは、今補助金を出したり、ここに書いてあるようにいろいろありますけれども、基本的に小牧市の農業を安定化させていくには、支援しますということだけで、支援しますというのは恐らく補助金を出すとか、そんな程度になると思うのです。だから、根本的に農業を支えるということになれば、こんな程度ではとてもではないが行かないような気がします。

しかし、小牧の農地というのは非常に少ないわけですから、こういう形になるのかなというふうな思いがありますが、思いとしてはそういう方向づけで今、日本の農業というのは行かざるを得ないということを痛感しているものです。

そんなことで、小牧が農業の人口を保ち、農業の後継者を保ち、ということは、これだけでは少し寂しいというような思いがします。

それから、意欲、能力のある農業者の担い手を貸し出した農地面積の割合ということで出ていますが、これは恐らく家庭菜園か何かの関係だと思います。直接農家と契約してお借りして栽培

をしている方もいらっしゃると思いますが、そういうことだけで農地を確保することは非常に難しい、やがて後継者不足で農地が放置されていくというようなことが目に見えるような気がしますので、その辺の考え方をお聞きしておきたいと思います。

**【代田部会長】**

何かこれだけの展開方法といたしますか、対策だとちょっと寂しいというお話ですが。

**【地域活性化営業部次長】**

展開方向1にありますように、新たな担い手の育成・確保というのが課題になっております。その中で、新規農業就業者とか、また引退農業者に対する補助とか融資をやっていくというのも大きなことであります。

今、農地貸し出しができる方、実際農地が使えない方に対しては、その農地を把握し、県にあるのですけれども、農地中間管理機構というところに貸し出しのお願いをして、認定農業者等がそこを担うというような形で現在進めているような状態で、これを増やしていかななくてはならないということは考えております。

**【水谷委員】**

いいですか。水谷です。私のほうからは、左側にある町の状況を示す指標の中の一番下にある、鳥獣による農作物の被害額に関して質問と、要望になるのかをしたいと思います。

目指す方向では、基準値を下げっていくということになっているのですが、これに対して何か計画というか、今だと東地区のほうでイノシシの被害等が多いと思うのですが、それに対して市としてどのような対策を持ってこの基準値を下げっていく方向で見ているのかというのを伺いたいと思います。

**【代田部会長】**

いいですか、お願いします。

**【地域活性化営業部次長】**

直接的な対策としましては、地域の猟友会等に委託をしまして、罾を仕掛けるなどの対策をしているところです。罾にしましても、市からの貸し出しをしたり、少しずつ増やしながらい対応しております。

さらに今後は、地域に協議会等を設置しまして、そういった対策もやっていきたいと考えているところです。

**【水谷委員】**

展開方向のところには、特に4のところに入る感じですか。左側にあつて、右側のところに「鳥獣による」という文言がないので、今後も進めていくのであれば、どこかに展開方向として入れてはどうかと思います。

**【地域活性化営業部次長】**

一度持ち帰って検討いたします。ありがとうございます。

**【市川委員】**

私は藤島団地に住んでいますけれども、ここで右の下のほうに、藤島菜園の利用者数を増やすと入っていますけれども、絶対に不可能だと思います。今でも2～3割あいていますし、ここを

利用する人がいない、手を挙げる人がいない。

必ずこういう農園は、1週間に1回か2回ぐらい来て手入れしないと、作物は育たないのです。外部から車で来る若い人は忙しくてこられない、年配者はどんどん離れていく。これはちょっと現実的に無理ではないかという気がします。だから現実を見据えたほうがいい、考え方を変えなければいけないのではないかと。

それと展開方向の1番ですけれども、私の実家は農家です。兄がやっていますけれども、息子は必ず継がない。もう周りは皆そうです。ほとんど、10軒に1軒も跡を継がない。

片や、渥美半島のほうは電照菊、あるいはキャベツ、ブロッコリー、どんどん拡張して行って、息子が継ぐ。あるいは長野県の川上のレタスですか。そういう形で、やはり特徴を持った形で、子供が跡を継ぎたいと。既に農家ではなしに農家経営、そういう形にならないと、農業経営は安定しないと思うのです。

短期的にはこれでよいと思いますけれども、本当に長期的に小牧市が農業経営に対してサポートするというのなら、特徴を持った農家を大切に育てて、あの地区はこうだ、だから自分もそこへ行ってぜひ仲間に入りたいという魅力ある地域、ものをつくるという形にしない限り、じり貧になっていくと思います。短期的には否定しませんが、先をにらめばそういうような魅力ある先輩がいて、そこへ行って自分もぜひ経営に取り組みたいというような形まで目指さないと、発展的な農業経営は難しいのかなと。

多分100人のうち99人はわかっていると思います、そのことを。だけど、簡単にそのハードルは越えられないということがありますけれども、何かその辺のことをどこかでちょっと触れるとか、心の片隅に置いて、そういう意欲のある人へは積極的にサポートするとか、何かそういうことに一歩踏み出す時期ではないか、そんな気がします。

【代田部会長】

いかがですか。

【地域活性化営業部次長】

ありがとうございます。これも持ち帰って検討したいと思いますので、お願いします。

【代田部会長】

この展開方向ですと、やはりやはり5年先もグッと縮小しているような姿が見えてきそうですので、もう少し長期的な視点も入れた展開方法も加えていただければと思います。

## 商工業

【代田部会長】

そうしましたら最後になりますね、「商工業」のほうに入りたいと思います。いかがでしょうか。

【鈴木委員】

私は本日小牧商工会議所の代表として参加しておりますし、また金融機関の立場として幾つか発言をさせていただきたいと思います。

この「商工業」の目的は、市内企業の流出防止と市内外からの企業誘致ということでありまして、まさしくそのとおりであろうと思っております。

そこで1つ目ですが、展開方向1の企業誘致の件であります。私は平成24年に小牧市の金融機関の代表の立場から、産業立地戦略会議に出席させていただいておりました。当時の説明でありますと、企業誘致をしようとしても適正な工業用地の確保ができない状況であるとお聞きし、またそのように理解しておりますが、この問題についてクリアしているのでしょうか。

以前、数字上ではある程度の面積の用地を確保しているということでございましたが、結果的にそれは点在した用地を合計したものだというふうに説明を受けております。

2つ目の展開方向2でございますが、商工会議所として小牧新産業振興センターには非常に期待をしております。また、人選についてもセンター長やコーディネーターの方はすばらしい人材がそろっていると聞いておりますので、ますます期待が高まっております。

そこで、既存企業のほうでございますが、現在小牧市においては事業所先数の減少、とりわけ小規模事業者の減少が大きく、大きな課題となっております。そのために小牧市といたしましては、各種補助として多くのメニューを用意されております。他の市町村と比較しまして、かなり充実していると私は理解、また評価をしておりますが、問題は、この品ぞろえの多さよりも、いかにそれを活用していただくかということが問題になろうかと思っております。真に必要な事業者メニューを伝えて、利用、活用していただく、その手段についてお聞きしたいと思っております。

3つ目でございますが、展開方向3の起業、創業者数の件でございます。この表には基準値が4人とありますが、あまりにも少ない基準値ではないかというふうに思っております。私は金融機関のトップであります、小牧市様の後援をいただいて、当社の創業塾を8年続けております。毎年10人以上の創業者を輩出しております。塾生以外の方を含めれば、年間20人以上は創業、起業をしていらっしゃると思います。

そういった観点からいきますと、この創業者数の4人はあまりにも少ないと思っておりますが、何か理由があるのでしょうか。

最後に4つ目でございます。展開方向4の採用の問題であります。今、中小企業、また零細企業の最大の課題は雇用問題であります。仕事はあるけれども、雇用がうまくいかないのが仕事になかなかこなせないということが、どの零細企業の方からも切実な声が聞こえてきます。

小牧の大企業の求人については、全く問題はないと思っておりますが、私の要望といたしましては、中小・零細企業の求人のサポートを手厚くしていただきたいと考えておりますが、どのようなお考えでしょうか。

以上、4つの点についてお伺いいたします。

**【代田部会長】**

いかがでしょうか。

**【地域活性化営業部次長】**

まず企業立地しても用地の確保ができないという点であります、平成26年7月に市街地調整区域内において、特定の事業を行う工場や研究開発施設の立地が可能となる条例を設定しました。その後、平成30年4月からはその対象事業を拡大して、さらなる規制の緩和を行っているところであります。

また企業訪問の実施により、企業立地のニーズ等の把握に努めております。あわせて、企業進出が可能な民有地の所有者とも定期的に情報交換などを行って、企業誘致に向けた取り組み、連携を行っているところであります。

なお、新たな工業団地の整備の検討につきましては、現在県内を始め他市でいろいろな取組をしておりますので、それらの取組を検証し、今後小牧市で同様の事業ができないかというようなことも調査研究を現在行っております。

2つ目の新産業支援センターのことと、いろいろな支援事業ということで、いろいろなメニューを用意しているが、その活用についてであります、これにつきましてもそれぞれの補助メニュー、いろいろなメニューの活用というのはバラバラであります。それも4年目となり、少しずつPRができてきているのかなと思っております。

そこで現在、新しい起業支援展開プログラムの改定を行うということで、車座会議等を通して、

活用していただける中小企業の方からの意見をお聞きしながら、また使っていただけるように検討していきたいというふうに考えております。

3つ目の展開方向3の起業者数であります。これにつきましては、手段の欄にあります起業・創業希望者を対象としたセミナーに参加した方のうち、起業・創業された人の人数であります。このセミナーにつきましては、創業を考えておられる方に対して基礎知識の説明と、先輩创业者の経験談を中心に実施しております。参加者の創業のきっかけづくりの場として位置づけております。参加者へは、より専門的に創業を学ぶことができる、東春さんの創業塾の紹介もあわせて行っておりますので、よろしくお願いたします。

4つ目ですが、中小・零細企業の求人のサポートの関係であります。現在、中小企業の雇用問題につきましては、本市としての重要な課題としてとらえております。

現在の取組といたしましては、ハローワーク春日井の出張所として小牧ふるさとハローワークを設置しております。そのほか、商工会議所と共催によって就職フェア及び高校進路指導教諭との懇談会を開催し、高校・大学との求人企業のマッチングイベントなどを実施しているところであります。

今後も労働市場の状況や他市の施策を研究した上で、今後改定を進めている企業新展開プログラムの策定の中でも、必要に応じて新たな施策を検討していきたいと考えておりますので、お願いたします。以上であります。

**【鈴木委員】**

ありがとうございました。そうしますと、起業者数のところにはセミナー参加者の中から起業されたということを少し入れられたほうがいいですね。

**【地域活性化営業部次長】**

はい、わかりました。ありがとうございます。

**【鈴木委員】**

ありがとうございました。

**【代田部会長】**

そうすると、展開方向1、2、3、4については、特に3のところでは少し加えてほしいということですね。よろしいですね。

**【水谷委員】**

連合愛知の水谷です。私のほうからは、地元の中小企業に対して質問、要望というか、これからの考え方を聞かせていただきたいと思っております。

中小企業で、地元の企業に対しては結構市外の大企業と比べていろいろな金銭面というか、事業等を発注するにしても結構、大企業だと安くできるしという、また地元の中小企業に関してはやはり人もいないし、実績もないしというようなこともあると思うのですが、市で執り行う事業に関して、地元の企業を優先的に活用するとか、そのような働きかけというのはできるものなのかということですね。そうでないと、せっかく雇用とかいろいろなことに取り組んだにしろ、仕事がありませんということになると、やはり大企業のほうに人が流れていってしまったり、地元からも働く人たちが外へ出ていったりという、そういうことになると小牧市の住民も減ってくるというようなことにもつながりかねないので、できればやはり地元の企業を大事にしてということで、多分展開方向2の手段の2番目、経営基盤の安定化に関する補助制度の活用というところにも入ってくると思うのですが、やはり地元の企業の活用というところも入れてもらいたいと

というのが1つありますし、今どのように考えているのかというところも質問したいと思います。

**【地域活性化営業部次長】**

委員のおっしゃるとおり、地元企業への発注については有利になるような入札対象にしたり、実際はやっております。文言についても少し検討していきたいと思いますので、お願いします。

**【代田部会長】**

地元企業の活用ということですね。

**【小柳委員】**

ちょっと質問します。小牧の新産業振興センターというのは、僕はどういうものかはちょっとわからないのですけれども、どういう規模なのですか。僕は、実は企業も工業も商業も経営をしているわけではなくて、サラリーマンで、市民ですけれども、やはり小牧市の発展のためには極めて重要だし、何か夢がなければいけないと思うのですけれども、小牧新産業振興センターというのはどういう規模のものか、ちょっと教えてください。

**【地域活性化営業部次長】**

規模ですね。現在、小牧新産業振興センターということで、来年4月の開設に向けて準備をしています。所在につきましては、商工会議所の1階、中央公民館の1階にあります児童センターの場所に設置するというので、今準備を進めております。

このセンターにつきましては、商工会議所と連携して、本市の将来を見据えて持続的な産業、雇用、財政の基盤づくりを目的に、市内企業を成長産業への参入促進、それから新事業展開の促進、またAI、IoTなどの新技術を活用しての生産性革命の推進の面から、積極的かつ能動的にサポートする小牧の産業振興の新しい拠点ということで今進めております。

先ほど少しご案内があったのですが、センター長、コーディネーター、それからアドバイザーの方を雇用して、準備を進めているところです。

**【小柳委員】**

では引き続いて伺いますが、小牧は先ほど農業の話もしましたけれども、田園都市から工業都市へ発展し、今日の地位を築いているということですから、僕はその規模の産業振興センターではなくて、一市民として考えた場合には、産業センターというか、そういうものを大きく開いて、小牧の商業者の特徴を起こすような名物とか、あるいは企業それぞれの個性ある製品というものを展示するというぐらいのスペースの会館でアピールするともっといいなという、個人的な思いはあるのです。これが実現できるということになると大変ですけれども、やはり小牧の商工業をアピールするようなことが、僕は必要ではないかというふうに思っております。

例えば、航空産業などでも三菱さんの主要な工場もありますし、そういうもの。あるいは企業でも、私が勤めさせていただいたのはさまざまな自動で動くような機械で製品をつくっていくというようなものもあります。企業秘密もあるかもしれませんが、こういうものをつくっているのだという展示場ができるぐらいの規模でつくってもらいたいかなと。そういう産業の中で、小牧工業高校もあるわけですから、生徒たちがさまざまなものをつくっている、いわゆるロボットなども展示して、市民を呼び込み、外からも人を呼び込みというような、僕は商工業にも市民が夢を持つというような規模でやっていただきたいという夢があります。これは夢ですから、実現はなかなか難しいかもしれませんが、恐らく私一人だけではなくて、それぞれ企業のOBも小牧にはたくさん住んでおりますので、そんな発想をしている者も少なからずあります。

ですから、それぞれの商工会議所と、役所と、大学でそういうものをつくって、外部にも小牧

の個性というものをアピールしていく、工業都市としての役割を果たしていったということをおアピールできるような規模でやっていただきたいというのがあります。

もう1つは、小牧がこれまでになってきたのは、やはり三大ハイウェイの陸の要衝として、かつてはそういう網の目のように高速がまだできないときに、小牧はいち早く工場誘致条例を制定して、多くの企業を呼び込んだと。不幸にして、34年の伊勢湾台風で沿岸部の機能が壊滅したために、小牧に中心を移した企業がたくさんあるわけですから、そういう歴史的な背景、伊勢湾台風は別として、高速道路の陸の要衝としての中から小牧市が工業、あるいは大規模団地を呼び込んで、今日の状態になっているということからすれば、今全国でも網の目のような都市、この間、何で見たのかわかりませんが、もう小牧あたりの大規模団地というのは来ないですね。もう少し奥へ入って、便利ですから。今、実は議会でも承認されたみたいですが、小牧でハイウェイオアシスというのとスマートインターを民間で開発するという話が出たものですから、これなども過去の歴史を参考にすれば、いち早く体制づくりをして、こういうものから商業も工業も発展していくというような道筋をつけていくことも、この機会を逃してはいけないと僕は思っています。

農業の話がありましたけれども、そういうところで産直販売をできるようなところをつくれば、農業の後継者もまた違う目で見つめるのではないかと思いますので、過去の歴史を繰り返さず、過去にとらわれずにやっていく必要があるのではないかと思います。

やはり市民に夢を持たせるようなものが出てこないといけないのではないかと、そんなことを非常に強く思っています。命のあるうちにそういう方向づけをしていただきたいと思っています。以上です。

#### 【代田部会長】

展示スペースの確保は可能ですか。

#### 【地域活性化営業部次長】

そうですね、現在のところそういった展示の場所というのは計画されていません。現在、産業フェスタということでいろいろな企業さんに参加していただいて、商工会議所さんと連携して、いろいろな市内の企業の展示やPRをやっていただいておりますので、そういったものの充実も必要かなというふうには思っております。

#### 【小柳委員】

産業フェスタも大事ですが、僕が行くとどうも産業フェスタに出すものではなくて、もっと企業には個性があって、アピールしたいものがたくさんあると思うのです。そういうものを展示して、よそから人を呼び、さらにそういうものがあるということで魅力を感じて、企業にもまた力を貸してもらって、それで人を呼び込み、そして小牧に住みたいというような形をとるには、そういうものを見て実感して、小牧に舞い戻ってきたり、新しく住んだりというふうにしないと、産業フェスタだけでは、これも大事ですけども、それだけではなくて、もっと思い切った施策というものが必要ではないかと。今の時代は石橋をたたいて、大企業、大企業と言うだけではなくて、将来を見つめてどうしたらいいのか、小牧のためには何があるかということももう少し僕は考えていただく方向がいいのではないかと。考えたいというのではないですよ、立派な方針が出ているわけですから、これは大賛成です。ですけども、そういうものもインパクトのあるものをもう少し考えてもらおうと、僕らはもう小牧に何十年住ませてもらっているかな、昭和36年からですから、北部へ帰るつもりはないですから、そういうことで小牧にお世話になっているだけに、小牧の将来をまたすばらしいものにしてもらいたいと思っています。僕らも残された力を出したいと思っています。

**【代田部会長】**

ありがとうございます。小柳さん、特に展開方向のところに何か追記するというようなことはありますか。

**【小柳委員】**

特にとにかく、僕はその規模の産業、小牧市新産業振興センターはそれでやっていただいてもいいのですけれども、もう少しそのような各企業や商業の人たちが一堂に会してアピールするようなものが、産業センターというのか、産業会館というのか、よくわかりませんが、もっと新しい名前があるのかもしれませんが、そういうものが含まれて、もちろん商工会議所の皆さんともよく相談してもらわなければいけませんけれども、そういう個性のあるものをうまく発信したもらうことが、僕はこの中に含まれているとありがたいと思います。

**【鈴木委員】**

ちょっとよろしいですか。この産業振興センターの件ですけれども、小牧市とともに会議所も数年前から協議してつくり上げるものでして、静岡にモデルがあるのですけれども、同じようなモデルを全国のあらゆる地域でそういったものをつくっておりますが、小牧はそういったものとは一線を画して、非常に斬新なアイデアで、全国でもないようなものができる方向で今進んでおりますので、小柳さんも多分ご満足いただけると思いますので。

**【小柳委員】**

ありがとうございます。

**【関谷委員】**

ちょっといいですか。今のこれは非常に感心したというか、期待しているのですが、小牧産業云々という件で、ここにぜひ、いつでも皆さんが、好きな人が集まれるコワーキングスペースというのですか、要はそういうところにしていただけると助かると思うのですが、これはあくまでも提案で、今ここにしてください云々ではありません。

**【地域活性化営業部次長】**

すみません、今のところ計画はありません。ここはあくまでも各企業さんを訪問して関わったり、調整するような場所でありまして、最近よく話題に上っておりますコワーキングスペースについては、今検討はしておりません。将来、図書館等ほかの公共施設などでそういった活用ができるのかもしれませんが、今のところは入っていませんので、お願いいたします。

**【関谷委員】**

ぜひつくっていただきたい。ここに入っていないのであれば、ぜひどこかに早急にというぐらいの程度、速いスピードで考えていただきたいと思います。

たまたまPRではないですが、桃花台にはいろいろな人材がいるのです。そういうものをうまく使うとか、あるいは僕らの近くには、今話題の造形大学さんが名古屋城に行くと。そうすると、その跡地の利用もいろいろと考えると思うのですね。あれがどういう資産運用になっているのかは知りませんが、そういうことを早急に市のほうで詰めていただきたい。こういうお願いでございます。

**【地域活性化営業部次長】**

ありがとうございます。今後検討していきます。

## 5. その他

### 【代田部会長】

それでは本日予定していた審議はこれで終了ということにいたします。予定は12時だったのですけれども、皆さん活発なご審議、ご意見をいただきまして、早めに終わりました。

次回についてですが、次回の審議会はやはり本日と同じような形で進めさせていただき予定にしております。資料は事前にお送りいたしますので、一通り目を通して審議会にのぞんでいただければと思います。

きょう皆さんからいただいた意見については、私と事務局のほうで一旦整理をした上で、また審議会、全員が出席する第4回審議会のほうで報告させていただき予定にしております。

それでは事務局のほうへお返しします。

## 6. 閉会

### 【秘書政策課長】

それでは委員の皆様、長時間にわたりありがとうございました。

まず私のほうから、きょう各委員のほうから、例えば自殺の関係とか、福祉の関係とか、いろいろ意見をいただきまして、この部会ではなくて、というような話もさせていただいております。

実は第2回、第3回はこの部会でやらせていただきまして、今、部会長からもお話があったとおり、第4回でくっつけてもう一度審議させていただきということでもありますので、その辺も踏まえて、またいただいた意見についてはそこでもしも不足等があれば、ぜひ意見をいただければと思います。

それでは、次回の審議会ですけれども、1月11日、年が変わって新しい時期になりますけれども、同じ時間、9時半からこの会場で開催したいと思っております。ぜひご出席のほうをお願いしたいと思います。

それではこれもちまして、第2回小牧市まちづくり推進計画第1部会を閉会したいと思います。どうもありがとうございました。

以上